

重大インシデント内容
ヘリコプター ベル式206B型 JA6113

保護者並びに関係者の皆様には、全国放送となりご心配をおかけいたしました。現状のところ、理事長の聞き取り調査であり、また、今後の対策をお知らせします。

1. 状況(法的・公的でないことが前提)

日本航空学園航空祭遊覧5便目、離陸準備が整い能登レディオにREQ TAXIを宣言した。能登レディオからreport when readyの返答を受け、当機は停止位置標識手前までTAXIし、READY callを行った。能登レディオからRWY IS CLRを受け滑走路に進入し、離陸操作を開始した。その際にRWY25末端付近(RYW07使用中)にJCG機を発見し、危険は感じなかったが、この時ヘッドオンの状態にあることを自覚した。JCG機との距離は、約800m以上あったと認識しているが、ヘッドオン状態にあることに違和感を覚えヘディングをやや左に向け離陸を続した。

2. 見解

現在、運輸安全委員会において調査中であるが、学園祭主催者としては、学園祭に参加するパイロットの安全確認の欠如によることもあると判断し、重大に受け止め、今後再発しない様に学園として下記の対策を行う。

3. 今後の対策

- ①パイロットは、航空交通管制機関からの情報を常に再確認する。
(相互確認の徹底)
- ②学園運航室における運航管理体制の強化
 - ・カンパニー無線の更なる有効活用
 - ・外来機の動向を確実に把握しておく。(能登レディオの確実なモニター)
 - ・運航室からも目視で確認し、滑走路の状況を把握し提供する。
 - ・運航室側からも、滑走路がクリアーである事の情報を提供する。
 - ・学園機(所属機)に対して、能登空港周辺を飛行している航空機及び滑走路の状況の情報提供を行う。
 - ・運航室からの視界を遮る空港内の木々の伐採を県担当局に依頼する。
- ③今後の日本航空大学校石川操縦科の方向性について
 - ・能登空港の活性化を含め、操縦科で自前の訓練を行う準備をしている。